

ミス・マスターズ

第一話

～ 渴愛のインセスト ～

私の名前はユリナ
隣は姉のローザ

私達はこの町の
小さな教会の
シスター

幸い街の人達は
皆よくしてくださって

大変だけど
穏やかで
充実した日々を
送っています

両親亡き今は
姉妹三人で教会を
なんとか切り盛り
しています

やつ♡
もう姉さんは
いつも悪ふざけが
すぎますよ！

ユリーナ
今日も
お疲れ様♡

これだけ大きな胸だと
肩こりも大変ね♡

そんな
こんなで
今日も無事
一日を終える事が
できました

ふーっ
ポン
ポン

お
お願いします！
力を貸して
ください！

こ子供が悪魔に
憑かれてしまって…

聖職者のお力で
なんとか救っては
頂けないでしょうか…

悪魔憑き？！

わ私達姉妹が
聖職者になって
こんな事は一度も
なかったのに…！

専門家ではない
私達では対処
できるかどうか…

私は一度
悪魔祓いの現場で
助手をした事が
あります

力不足では
ありますが…
私が力を
貸しましょう！

でも…
憑いた悪魔によつては
子供の体力じゃ
最悪一日もつか
どうか

教会に申請して
悪魔祓いの
到着を待つて…
それじゃ絶対に
手遅れになる…

こんな時に手を
差し伸べるのが
聖職者の
仕事でしょう！

ここの先です！
聖職者様！

ここって…
こんな
何もない所に
子供なんて…

ちよつと！
こんな時に
悪ふざけなんて…

あなた…
こんな所に
誘い出して
一体なんの
つもり…？

嫌な予感…
それに
この鼻を突く
臭い^{にお}は…

ククク…
聖職者トも
あろう者ガ
魔の存在ニ
気づかナイとは…

まさか…こいつが
悪魔そのもの
だなんて…！

私かユリナが狙い
だったつて事…！？

教会ハもツと
俺タチ悪魔ニ
警戒するベキ
だなア？

だったら…！

主よ……！
魔を清め祓い
弱き我らを
護りたまえ……！

ふうふうふう

やるなら
先手必勝！

教会支給の
守護石に
力を込めて……！

これがダメなら
どうにでもなれよ！

グワアアアアッ

ほあっ

聖職者になってから
祈りの力をずっと
込め続けた
この守護石の力を
今解放放つ！

シュー

やめテ…!

やめてください！
姉さん…!

ユ
リナ…!?

クク…っ
想い人の姿に
思わず
手を止めたな…

お前の心の内
完全に読み取ったぞ

そんな…
守護石の力が
まるで
効いていない…!?

お前の願望
叶えてやっても
いいぞ？

なにを…
ふざけないで
悪魔め…っ!

聖職者で
ありながら
実の妹に欲情する
変態の願いをなあ!

欲情なんて…っ
するわけ
ないでしょ…!



は…ああーっ♡
やめろ…っ



豊かな胸だ…
ククッ
動悸が早いぞ？



そうか？
ならば
確かめてやろう



欲望に素直に
想い人の愛撫で
好きなだけ
よがるがいい

く…
ふうっ



無理に抵抗
するな

どうして…っ
胸を揉まれた
くらいでこんなに
感じて…っ



ひあああ♡
ちくびい♡

ふふ…
身体は既に
受け入れたがつて
いるぞ？
愛する妹の愛撫は
さぞ気持ち
いいだろう？



これは…っ
ただ驚いた
だけ…っ

あ♡
ほお？

この私が
悪魔の
愛撫で
感じるはずが…
んい♡

両乳首とも
コリコリだ♡

感じていない
と言いながら
いい反応だな



こちららも 聖職者は
こんなに こんなになっても
なつて… 強情だな

そこはっ

指でっ♥
奥までコロコロ
擦られてっ♥

ああ…
相手は
悪魔だつて
わかつて
いるのに…

これ以上は…っ
抑えきれないっ♥

素直に
受け入れろ
欲望を
幸福を♥

ユリナの声で
指でこんな事
されたら…っ♥
発情しちゃうに
決まってる
わよおおっ♥

まあっ

はっ





そうやって
全てから眼を逸らし
己の心を
押し殺すのか？

それがお前の
幸福とでも？
いい加減
素直になれ



ココも
もう勃起して
いるぞ？



ほおら



よく
考える



快樂に属し
私と契約する事で
お前の歪んだ愛を
成就させるのだ

そうすれば

あ悪魔の甘言に
惑わされるほど…
んひっ♡

私…は…あ♡
浅はかじゃ
ない…んはあ♡

「本物の妹」
さへも
お前の思うが
ままだ

あの
清らかで
美しい妹を
お前自身の手で
欲望まかせに

滅茶苦茶に
犯し汚し壊す事が
出来る♡

へいん

そんな事っ♡
私は…あつ
あの子だけはっ♡
私が守る…うっ♡

私の手で穢す
なんて…
ありえない♡

んあ

カク

口でそんな事を
言っても
心は正直なもの

妹を犯せると
聞いた途端
心が喜びに
打ち震えたぞ♡



エリナの髪をさす♡
いかにじゅぽい♡

あにやあつ♡
もあつ♡
やめてえつ♡



さからえ
なくつ♡

なつちやう
からああつ♡

あへ♡
えええ♡

あへ

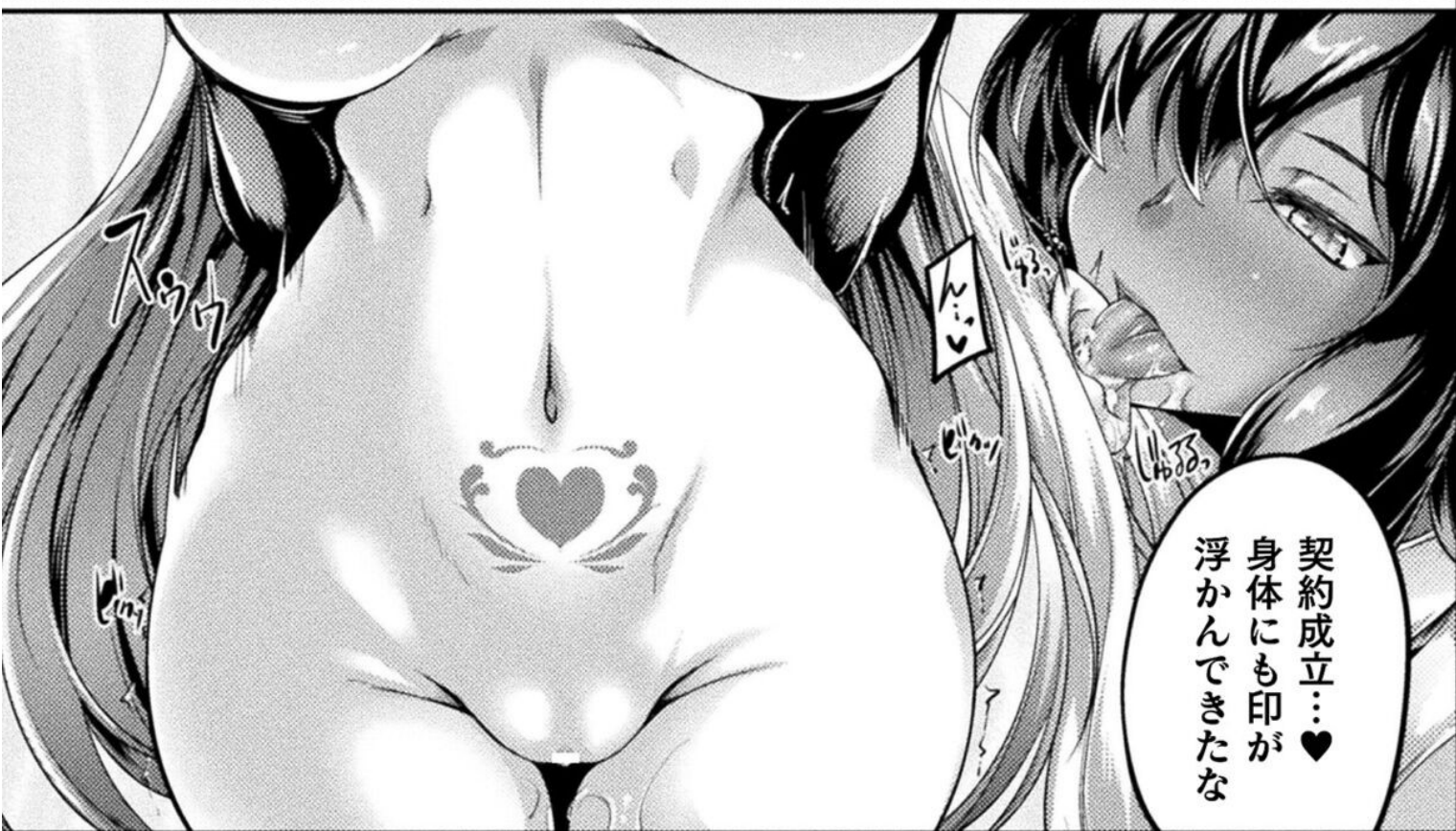


ユリナに
イカされて…♥
悪魔を受け入れ
ちゃった…ああ♥

はへい
はへい



いつ…
ちゃった…ああ♥
おっ
あっ



契約成立…♥
身体にも印が
浮かんできたな



私の力を
お前に与えよう
さあ
受け入れる…♥

はああ…♥
ごめんなさい…♥
ユリナあ…♥

は

は

姉さん
どうか…

どうか無事でいて
ください…

主よ
どうか姉さんを
お護りください…！

ね姉さん！
無事でしたか！？

ただいまユリナ
会いたかったわ♡

ち違う…
姉さんじゃない

私…
本当に心配で…

何かあったんじゃ
ないか…って…

姿は姉さんなのに
魔の気配がする…！

どうしたの
ユリナ？
悪魔を祓って
クタクタの
お姉ちゃんを
癒やしてよお

私の
信仰の力… します…！
お願い

この祈りが
神に届き
姉さんに憑いた
悪魔を祓って…！

姉さんと全く
同じ姿…

まさか
悪魔に…!?

あらあら…

目くらましに
しては強烈ね♥

どうか…！
あの者を
清めたまえ…！

主よ…！



き消え…!?



このまま
殺しちゃうのは
簡単だけどお
それじゃ
つまらない
でしょう?

あなた
貴女の信仰って
その程度お?
お姉ちゃん
がっかりだわ♥



朝まで攻めに
耐えきれたら
姉も貴女も
見逃してあげる♥



んふ…♥
初々しい反応♥



だから…
貴女にチャンスを
あげる♥

なんてカ…っ
押さえつけられて
抵抗できない…!

なのに…
圧倒的優位にも
拘らずどうして
こんな事…
でもどのみち
従わなければ
姉さんも私も
こいつに…



朝までに
貴女の理性を
剥ぎ取って
あげるわ♥



はあ…♥
おい…♥
美味し…♥

く…っ



耳にヘソに腋…
少し変な気分になるけど…
この程度なら耐えられる…!!



腋…



ヘソ…
おい…

私には選択肢なんて
ないのだから…!!



悪魔に
何をされても...っ
何も感じたり
しません...っ



うふふっ♡
その目つき
ゾクゾク
しちゃう♡

その目が
情欲に染まるのが
今から楽しみね♡





こんな下品で
大きい陥没乳首を
ブラ下げて♡

全然説得力が
ないわね♡

んあ♡

ん♡

は♡



ちくびつ♡
そんな
風にい…♡

たったこれだけで
こんな声が
出ちゃう…

それで朝まで
もつのかしら？

あ♡

あ♡

ん♡



あらあ？
さっきまでの
強がった態度は
どこへ行ったの
かしら？



口では
どう言っても
身体は正直♡

コリッコリに
勃起したエッチな
乳首とご対面♡

うふふ♡
いい具合に
蕩けちゃって♡

それじゃ
お次は…♡



そこそこは
不浄の穴…っ
姉の身体で
触れないで…



この可愛い蕾を
苛めちゃおう
かしら♡



ゆ指が…♡
お尻の穴を
押し拡げてえ…♡

えい♡



本当に
初めて
かしら？

肛門がきゅつと
指に吸い付いて
くる♡



もう腸内も
トロトロで…♡



排泄^だするための
穴なのに
こんなにエッチな
反応…♡
聖職者
失格ね♡



勝手な事
ばかり…っ

今は身体が
敏感になっている…
だけです…っ♡



じゃあ
こうすれば…♡
えいっ♡

まっ♡



ふふ♡
安心するのは
少し早いわ♡

今までののは
いわば
準備運動♡

この子達を
受け入れても
壊れてしまわない
ようにね♡



ひっ触手♡♡
気持ち悪いっ



すっかり
出来上がっちゃって
もうこんな
ほぐれちゃった♡

指…抜いて…
終わった…の？



ごりごりの
表面で肛門
ズリズリ擦られて
しまったらあ…♡



おお尻の穴
広げられて…っ
腸内が無防備に
されてる…っ

この触手が
お尻の中に
入ってきたら…っ

さあ
触手を通じて
私と繋が
ましよう♡
聖職者には
絶対許されない
不浄の穴での
近親相姦
触手セックス♡

あゝ

やあ
ああ

んん

ずりり

ずりり

んん

んん

んん

んん

んん

んあああ♡
触手♡
入ってくる…♡

狭い穴に無理やり
割り込んでくる
みたいに…っ
奥に…っ

んん
苦し

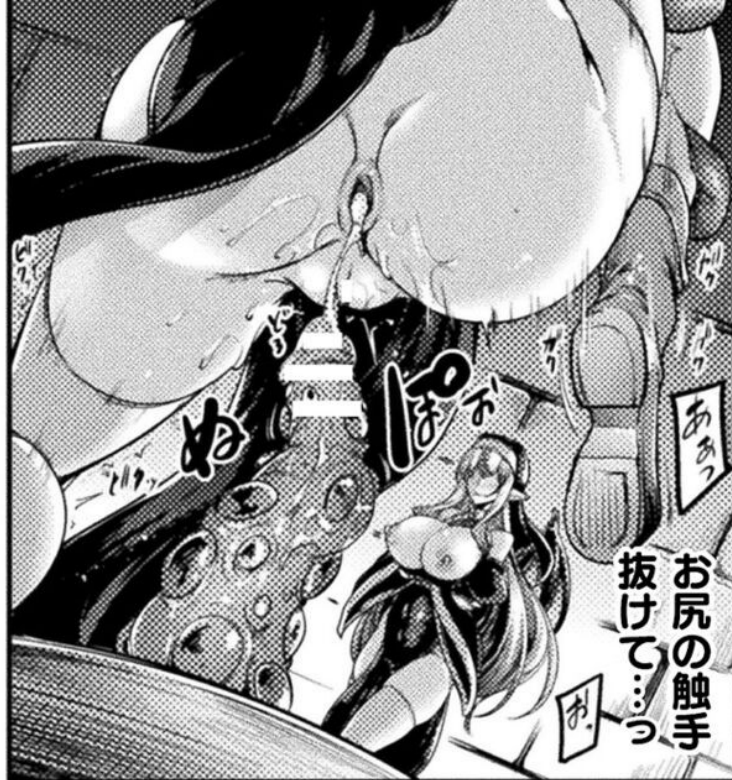
んん

今度は一気に
引き抜かれっ♡

あゝ

絶対またなら…♡

悪魔に
イカされ…♡



お尻の触手
抜けて…っ



ななに…!?
触手に吊り上げ
られて…

身体が…っ
持ち上げ
られてるっ!?



身体
落とされてっっ
一気に
腸奥までええっ

お…ほお

お…ほお

お…ほお

お…ほお



お腹の中で
触手が暴れて
いるのに…っ

前の穴まで
深い所に
指にいっ♡

前も後ろも
滅茶苦茶に
されて…っ♡

気持ち良すぎて
体勢を保つて
いられない…っ

あゝはぁあゝ

まだ我慢
しているの？
いい加減
快樂に負けて…

素直に
なりなさいっ♡

Yesっ♡

快樂なんか
負けては…
いけないのにっ♡



皆が注目する
講壇の上で
自ら腰を振って
一心不乱にケツ穴
ほじくって♡

変態の貴女は
ここいっぱい
信者達に見られながら
していると思うと
興奮するでしょう？

こんな行為を
衆目に晒しながら…
そんなの…♡



あはっ♡
今肛門がきゅっ
締まったわよ♡

触手ちんぽを
咥え込むのを
見られる想像をして
感じちゃった
のかしら♡

もう快樂に
負けて樂に
なりましょう♡

触手も
肛門と腸奥に
こりこり擦れて♡

貴女のケツ穴を
犯す快樂が
流れ込んでくる♡

いいわよ♡
それじゃあ
腸内に熱いの
流し込んで
あげる♡

返事もできなく
なっちゃってる♡

悪魔に無理矢理
お尻の穴で
触手性交されてっ♡

んんんん♡
んんんん♡

ふんっ♡
んん♡

んんん♡
んんん♡
んん♡

ふん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡





うぐうぐう

大きいの
キチャウ
ううう

あ♡

あ♡

ビク

ビク

ビク

ビク

ビク

♡

あ

あ

ふは

ひく

ひく



わたしは…
快楽に
なんか…あ♡

ぜったいに…♡
屈したり
しまひえん…♡

ケツ穴をあれだけ
ブチ犯されて
身体は屈しても
心は折りきれない
なんて…
もっとじつくり
犯し汚し
壊して
私のものに
してあげちゃう
からあ♡

To be continued.